

6月29日部会意見から明らかになった課題

【部会意見】

「要援護者名簿」の活用・地域連携

- ・「要援護者名簿」をどのように活用するのか、十分に知られていない。
- ・個人情報の取扱いをどうしたらいいか。
- ・介護認定を申請していない人は行政で把握していない（名簿にのっていない）が、地域では情報をつかんでおり、地域福祉サポーターと情報共有しているので、行政（名簿）と地域の情報を合わせられないか。
- ・地域包括との情報共有が不十分である。
- ・民生委員との情報共有が不十分である。
- ・相談があったことが、町会長等に連携できていない。
- ・町会に入っていない人は、地域につながっていない。

地域に埋もれている「要援護者」

- ・コロナ禍で独居老人の認知症の早期の気づきが困難になっている。

地域での取組み

- ・独居老人に2月に一度ティッシュを配ることで安否確認している。

【明らかになった課題】

- ・行政が保有する「要援護者名簿」の登録者に対して、地域（地活協、民生委員等）に情報を提供することに対する同意確認を行い、同意のあった要援護者の情報を地域に提供し見守り活動につなぐこととしているが、名簿に載っていない方の情報をどのようにして収集・共有するか。
- ・認知症高齢者等の異変に「気づく」ためにはどうしたらいいか。